

「自転車ブーム」とサイクルロードレース普及
“Cycling boom” and the spread of cycling road race in Japan

1 K07B001-8 相澤郁

指導教員 主査 木村和彦先生 副査 寒川恒夫先生

1. 序論

ツール・ド・フランスは、オリンピック、サッカーワールドカップと並ぶスポーツイベントとして世界的に認知されている。サイクルロードレースは、そもそもは欧州を中心として広がった文化ではあるが、その後はアメリカ、オーストラリアなどでもプロツアーが開催されており、オリンピック競技の1つでもある。

しかし、日本での認知度は必ずしも高いとは言えず、サイクルロードレースというスポーツ自体が、日本では馴染みのないものである。また、日本のサイクルロードレースの競技成績は他国と比べても低い。今後、このサイクルロードレースが日本で受け入れられ、普及していくか否かについて検討することは重要な課題の一つであると考ええる。

その一方で、エコ、節約、健康増進を目的とする交通ツールとしての自転車への関心が高まっている。「自転車」を主題とする女性や初心者向けの雑誌等の発刊も増加しており、メディアにおける著名人による自転車通勤の取り上げも追い風となっている。そして、この一連の流れは「自転車ブーム」として様々な場で取り上げられている。

筆者は、近年の「自転車ブーム」の風潮が、自転車への注目を集め、サイクルロードレース普及に対し影響を与えるのではないかと考えている。しかし、この「自転車ブーム」の実態は明らかになっていない。「自転車通勤が増加しているらしい」、「自転車人気が高まっているらしい」というメディア等による憶測だけで、明確な指標となるものはない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年の「自転車ブーム」の実態を示し、日本でのサイクルロードレース普及への影響を明らかにすることである。

「自転車に乗る人口が増加し、自転車への関心が高まっている」、という理由により、メディア等は「自転車ブーム」を示唆している。この真偽を確かめ、「自転車ブーム」の実態を明らかにすることを目的とする。また、「自転車ブーム」とサイクルロードレース普及の関係をサイクルロードレース大会の参加者、観客数の推移などにより明らかにする。更に、サイクルロードレース普及における今後の課題について考察する。この「自転車ブーム」の実態を明らかにすることにより、

今後の日本におけるサイクルロードレース普及に繋がると考えている。

3. 研究の方法

この現在の「自転車ブーム」と呼ばれるようになった原因について3つの仮説をたて、「自転車ブーム」の実態を明らかにしたいと考える。

- ①自転車通勤・通学者数の増加
- ②自転車普及率の増加
- ③自転車台数売り上げの増加

また、サイクリングロードレースの参加者、観客数の推移との関係性を調べる。

4. 結論

「自転車ブーム」に関する3つの仮説はいずれも棄却された。一方で、近年のスポーツ車の販売台数増加が指摘できる。自転車全体や他の車種の販売台数が減少傾向にある中で、スポーツ車の販売台数の増加は顕著である。このスポーツ車の販売台数増加が「自転車ブーム」ではないかと推測する。また、スポーツ販売台数増加時期と、サイクルロードレース参加者・観客数の増加時期には相関関係が見られ、スポーツ車の販売台数増加が、サイクルロードレース普及に影響を与えている要因の1つとなっていると考えられる。

「自転車ブーム」の一因たる、スポーツ車の販売台数向上に向け、サイクルロードレースを日本で普及していくために、今後より良い自転車の使用環境を整備することが必要であり、

- ①自転車教育の徹底
- ②車道の整備

が、重要課題になると考える。「①自転車教育の徹底」とは、自転車使用者の自転車法規・マナーに関する知識を養うことである。「②車道の整備」とは、日本では未発達である自転車道の整備を指す。これらを実現しつつ、スポーツ車の認知度を上げていくことが、「自転車ブーム」を継続させることに繋がると思われる。

そして、この「自転車ブーム」を一過性の流行で終わらせず、継続的に発展させることがサイクルロードレースの普及にも影響を与えていくのではないかと推測する。